

第27回

ふるさとイベント大賞

受賞イベントの概要

令和5年2月28日

【 目 次 】

大賞(内閣総理大臣賞)

市場街(高岡クラフト市場街)＜富山県高岡市＞	2
------------------------	---

最優秀賞(総務大臣表彰)

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020+＜千葉県市原市＞	3
-----------------------------------	---

優秀賞(地域活性化センター会長表彰)

わらアートまつり＜新潟県新潟市＞	4
第3回小倉城竹あかり＜福岡県北九州市＞	5
吉田皿屋ひかりぼし＜佐賀県嬉野市＞	6

ふるさとキラリ賞(選考委員会表彰)

行田花手水 week 及び希望の光＜埼玉県行田市＞	7
てぬぐいひらひら ＜鳥取県境港市＞	8

選考委員特別賞(選考委員会委員長表彰)

全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会 (書道パフォーマンス甲子園)＜愛媛県四国中央市＞	9
--	---

市場街(高岡クラフト市場街)

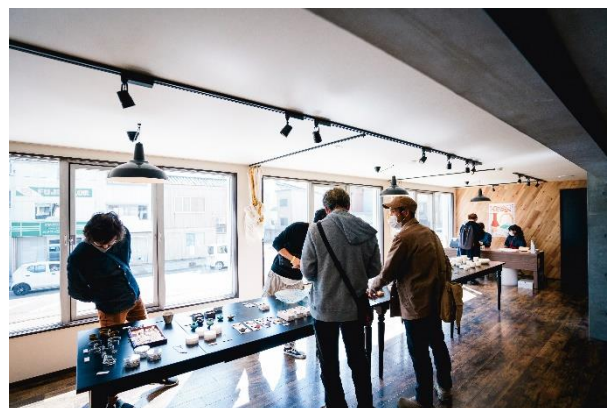
高岡クラフト市場街実行委員会(富山県高岡市)

【概要】

「市場街(高岡クラフト市場街)」は、高岡中心市街地において、毎年秋頃に開催する「クラフト」をテーマとしたイベント。平成28年からは「工芸都市高岡の秋」に拡大、令和2年からはオンラインプログラム「市場街TV」を立ち上げている。

【評価のポイント】

- ・クラフトのイベントを通して、鋳物など高岡ならではの伝統工芸や地場産業の振興につながる可能性がある。
- ・年々参加団体や業種が増え、高岡市全体の取り組みに成長している。富山大学と連携したきめ細かいコンシェルジュ機能が、訪問者の満足度に繋がっており、同種のイベントを開催している他地域のモデル的な取り組みとなっている。
- ・オンライン配信や番組制作は職人を前面に出す工夫をし十分インパクトがあり、訪問客やリピーターの増につながって、経済波及効果も高いものと考えられる。このイベントをきっかけに、移住者や創業者、大学生が学校の志望動機とすることもあるとのことであり、益々の発展を期待できる。



房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020+

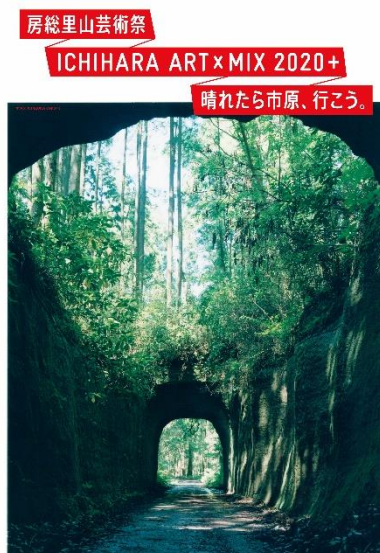
いちはらアート×ミックス実行委員会（千葉県市原市）

【概要】

市原市の豊かな自然などの地域資源とアートを融合させ、アートによるまちづくりに取り組んでいる。関東一遅い紅葉に染まった里山を舞台に開催した令和3年度の芸術祭は、70組のアーティストにより90を数えるアート作品を出展した。

【評価のポイント】

- ・2000年代初頭から各地で開催されるようになった「里山型トリエンナーレ」の代表例として、アートによる地域資源の再発見や利活用を促進し、地域の活力創出に寄与することが期待される。
- ・町じゅうをアートで満たす大がかりなイベントは、アートの鑑賞だけでなく、町の魅力の再発見にも大きくつながる。
- ・日本の美意識や郷愁の原点となる里山の再認識や若い人材を集めるためのアートを軸にした地域の活性化は、他のイベントと比べても大きな成果が期待できる。



わらアートまつり

新潟市西蒲区

【概要】

広大な水田が広がる米どころ新潟市西蒲区を舞台に、稲わらで作った巨大なオブジェを複数展示している。稲わらの温かさと懐かしさ、そして迫力と躍動感あふれるアート作品を楽しむことができる。



【評価のポイント】

- ・日本の自給食文化として切っても切れない稲作の収穫後の景観としても魅力的な取り組みの中で、武蔵野美術大学の学生との協働やそのデザインを実現するためのボランティア(地域住民や農業従事者など)の存在が作品の魅力やイベント拡大のエネルギーとなっている。
- ・武蔵美の学生有志と地域住民や教育機関の共同作業による今後の展開、発展に期待したい。
- ・とても独創的で迫力があり、わらを使うという点がとてもユニークである。



第3回小倉城竹あかり

小倉城竹あかり実行員会(福岡県北九州市)

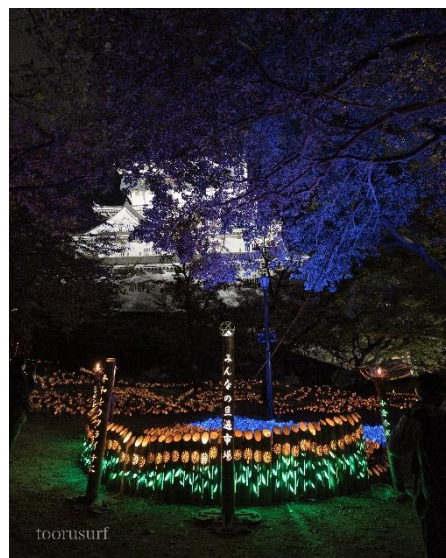
【概要】

放置竹林の環境問題を市民に啓発する目的で、竹を伐採し竹灯籠に形を変え、小倉城に幻想的な景観を創り出している。日本新三大夜景都市に認定されている北九州市で、中心市街地の回遊性・賑わいを演出し、北九州市を代表する秋冬の風物詩になることを目指している。



【評価のポイント】

- ・放置竹林対策とともに、伐採した竹を灯籠に加工して幻想的な竹灯籠の灯で集客を図る発想は素晴らしく、3万個というスケールも見事。
- ・日本各地に蓄えられる「竹」との共生の姿は、現在の生活スタイルからどんどん遠ざかり、その関係が希薄化しているなか、竹林の美しい景観、美しい緑を持続可能にする「管理」も大きなテーマである。そういった点で、資源や文化を活かし継承することの大切さを伝えるイベントとなっている。



吉田皿屋ひかりぼし

吉田皿屋ひかりぼし実行委員会(佐賀県嬉野市)

【概要】

400年の歴史を誇る「肥前吉田焼」の認知度向上やファンの獲得はもちろん、嬉野市や近隣に住む子供たちの感受性を育むようなアートイベントにしたいと願い始まったプロジェクト。有田や伊万里、波佐見といった近隣の大きな産地と差別化し、小さな産地だからこそできることを心掛けている。



【評価のポイント】

- ・本来は廃棄物となる焼物のまち特有の「ボシ」を資源として活用するアイデア、さらにアートや食などと結びつけて広がりを持たせる発想がよい。
- ・「ボシ」と「暗さ」といういわば負の財産を掛け合わせて新たなイベントを立ち上げたところに好感を感じる。4000個という数も魅力。
- ・陶磁器生成の道具を使った素朴な表現や地域の人の連携で新たなデザインによる商品開発やレストランとのコラボレーションなど、今後の拡張性や多彩な魅力づくりの可能性を秘めたイベントである。



行田花手水week及び希望の光

行田市・(一社)行田おもてなし観光局(埼玉県行田市)

【概要】

「コロナ禍での来訪者に癒しを」との思いから「行田花手水」が始まったイベント。神社だけでなく、行田のシンボル「忍城」や商店、民家等約100箇所に飾られた花手水が毎月2週間限定でまちを華やかに彩っている。また、毎月一夜限定のライトアップでは、来訪者の心に希望の光を灯している。



【評価のポイント】

- ・神社への参拝客への癒やしを目的に始められた花手水を、街全体に面的に広げ、各商店への誘客につなげていくアイデアが実を結び、経済波及効果や継続性も見込まれる。
- ・まちの散策マップの作成やライトアップでのインパクト。毎月定期的な開催により事業のPR効果も高まり、今後の発展が期待できる。
- ・行田八幡神社の花手水の歴史的な由緒を始まりとし、その可憐で繊細な美しい花のアレンジメントが現代の若い世代にも話題となっている。



てぬぐいひらひら

境港市・一般財団法人境港市農業公社(鳥取県境港市)

【概要】

境港市の伝統的地域資源である「伯州綿」をPRするために、平成29年から毎年秋に開催している。伯州綿を使って製作した手ぬぐいと、全国各地から集めた130種超の手ぬぐいを“ひらひら”と展示している。

【評価のポイント】

- ・小規模なイベントながら、ご当地の色とりどりのてぬぐいが街中で風になびく光景は、見てみたいと思わせる魅力がある。
- ・日本の色彩豊かな身近な生活用品である「手ぬぐい」が風や光の中で空に舞う造形は美しい。「伯州綿」を活かして食にもつなぐユニークな展開や人とモノをつなぐ「平和」や「人の和」を体現したとてもさわやかで魅力的なイベントである。
- ・ただ飾るのでなく「ひらひら」見せるというのが素敵である。



全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会 (書道パフォーマンス甲子園)

書道パフォーマンス甲子園実行委員会(愛媛県四国中央市)

【概要】

日本一の紙のまち四国中央市で、書道パフォーマンスの高校日本一を決める大会。高校生が音楽に合わせて趣向を凝らしたパフォーマンスをしながら、巨大な紙に伝えたい思いを綴る。究極の青春と感動に溢れた催しとなっている。



【評価のポイント】

- ・高校生による手作りの全国イベントに育て上げたパワーと発進力が素晴らしい。実際の大会参加者は限定されるが、多くの企業が協賛し、報道関係の発信が盛んで、全国的な注目度は計り知れないレベルに達している。
- ・書道を「チームの演技」にしたことが新鮮で、高校生の心を捉えたものと思われる。全国の書道部に所属する高校生が目標とするイベントとしてさらに発展することが期待できる。
- ・書を支える素材としての紙の産地として名高い地域で、今後の地産地消を活性化するさらなる発展も期待できる。

